

平成 27 年 第 6 回男女共同参画セミナーを終えて

2015 年 9 月 6 日から 8 日にかけて新潟市の朱鷺メッセ:新潟コンベンションセンターで開催された日本植物学会第 79 回大会において、学会二日目の 7 日に男女共同参画セミナーを開催しました。第 6 回となった今回は、「研究と育児を両立する若手研究者を雇用する PI の意識改革は必要か〜「イクボス」ってご存知ですか?」をタイトルに掲げ、例年と同じくお昼休みを利用したランチョンの形式で開催しました。当日は、150 個用意したお弁当がほぼすべて配布され、多くの方にご参加いただきました。

会の開催にあたってはまず戸部会長からご挨拶をいただき、続いて永田典子男女共同参画委員から、日本の男女共同参画の現状や、日本植物学会も参加している男女共同参画学協会連絡会の活動が報告されました。

続く今泉（安楽）温子男女共同参画委員の講演「「イクボス」という概念の登場と社会的必要性」では、「職場でともに働く部下・スタッフのワークライフバランスを考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績や結果を出しつつ自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司」という「イクボス」の定義、その概念が登場した社会的背景が紹介されるとともに、セミナー参加者全員を対象とした「イクボス度チェック」も行われました。

続くパネルディスカッション「「イクボス」と考える両立研究者を活かす研究耐性支援」では、イクボス代表として福田裕穂東大教授、木下俊則名大教授、永田委員、イクボスを上司に持つ部下代表として吉田聡子理研上級研究員の 4 人にパネリストとして登壇していただきました。

福田教授・木下教授からは、学生や部下が妊娠・出産した際の研究室内での支援体制として、出来る限り雑用は回さない、交換日記のようなノートを作って日々の実験やそれ以外の様々なことについてコミュニケーションを取っていた、などのイクボス体験が紹介されました。また、木下教授からは、女性にとっての出産適齢期は大学院在籍時なので、学生の出産にもっとサポートがあると良い、との意見もいただきました。

博士研究員時代に妊娠・出産なされた経験を持つ永田委員からは、上司から積極的に

BSJ
日本植物学会

第六回 日本植物学会男女共同参画ランチョンセミナー

研究と育児を両立する若手研究者を雇用する
PIの意識改革は必要か?

「イクボス」ってご存知ですか?

ランチ付き*

9/7 (月)
12:30~13:30
B会場

会長挨拶
戸部博 日本植物学会会長、京都大学名誉教授
日本植物学会における男女共同参画の現状
永田典子 日本女子大学理学部 教授

講演
「イクボス」という概念の登場と社会的必要性
今泉(安楽)温子 農業資源生物研究所 主任研究員

パネルディスカッション
「イクボス」と考える両立研究者を活かす研究体制支援
福田裕穂 東京大学大学院理学系研究科 教授
木下俊則 名古屋大学大学院理学研究科 教授
永田典子 日本女子大学理学部 教授
吉田聡子 理化学研究所 環境資源科学センター 上級研究員

司会:今泉(安楽)温子 農業資源生物研究所 主任研究員

*当日朝、先着150名様に受付付近にてランチ引換券を配布します。引換券をお持ちでない方も参加していただけます。

話しかけてくれることにより、部下は自分が頑張っているというアピールもしやすい、との PI に向けたアドバイスがありました。吉田上級研究員からは、上司からもらった「育児と仕事の両立の敵は罪悪感」との言葉が紹介されました。

また、PI として甘やかすすぎてもいけないというジレンマについてどう対処してきたのか？という司会の今泉委員からの問いかけに対しては、現在 PI である永田委員から、妊娠・出産中はホルモンバランスが崩れ、精神状態にも変化が起きるので、本人もそれを客観視してわがままを言い過ぎないで欲しい、とのコメントがありました。

最後に、福田教授から、時間・場所の制限をつけず、ゆるやかな場を作ることが、育児中の部下を持つ PI にできることではないか、とのメッセージをいただきました。

永田委員からの報告にもあったように、現在、2020 年までに社会のあらゆる分野において指導的地位に女性が占める割合が 30%になるように、との目標数値が掲げられています。この目標を達成するには、育児や介護をしながら働く人を受け入れる社会体制が必要です。今回のテーマである「イクボス」は、今泉委員の講演にもあったように、このような社会体制を作るためのキーワードの一つとなるのではないかと考えられます。

最後に、今回のランチョンセミナー開催にあたり、お世話になった学会運営委員の先生方、パネリストをお引き受けいただいた皆様、本会の活動を支えてくださった戸部会長に感謝致します。

男女共同参画委員会委員・稲田のりこ



パネルディスカッションの様子